

# 令和2年度 第2回 長崎県公共事業評価監視委員会

## 再評価対象事業

河川-1 総合流域防災事業  
時津川

事業主体 長崎県

再評価  
の理由 再評価後5年経過



1

## 1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H10年度)	事業採択後 10年経過	S63	H16	29.3	2.38	改修延長 L=940m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等
第1回審議 (H15年度)	再評価後 5年経過	S63	H21	37.0	11.57	改修延長 L=940m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等
報告 (H18年度)	整備計画策定	S63	H25	37.0	8.96	改修延長 L=940m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等
第3回審議 (H23年度)	再評価後 5年経過	S63	H27	47.1	7.69	改修延長 L=940m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等
第4回審議 (H27年度)	社会情勢の変化	S63	H40	69.9	5.67	改修延長 L=2,700m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等
第5回審議 (R2年度)	再評価後 5年経過	S63	R10	69.9	4.94	改修延長 L=2,700m 河道拡幅、河床掘削、護岸整備、橋梁架替 等

2

## 2. 目的・事業概要・これまでの経緯

### ◆目的

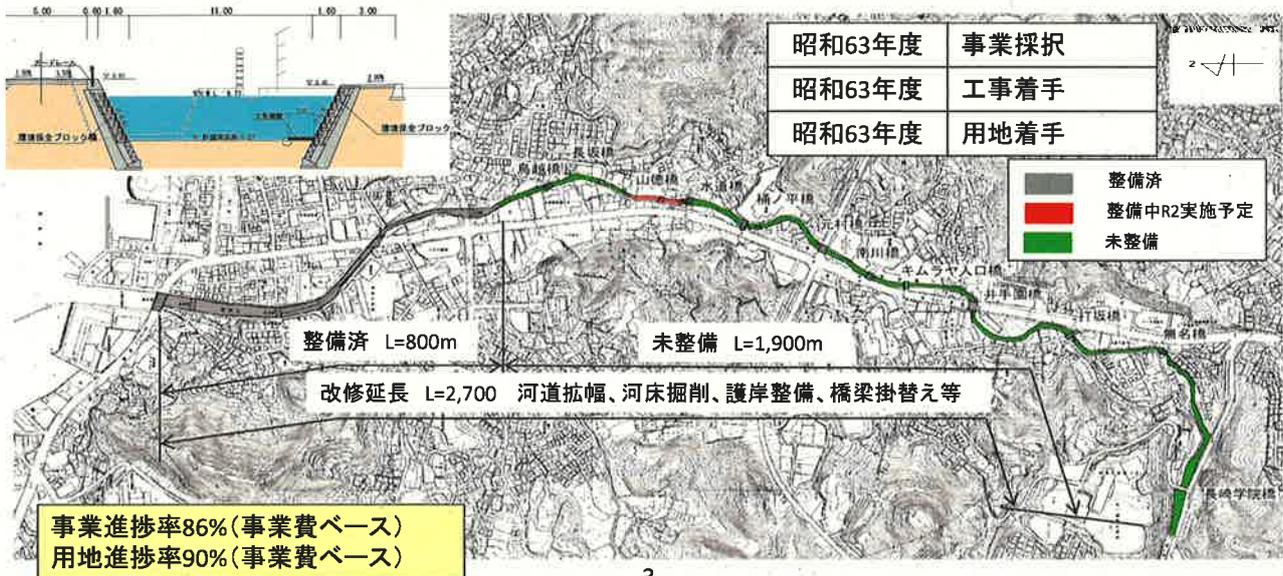
・時津川の総合流域防災事業は、河口から長崎学院橋上流にいたる間を現川沿いに河道拡幅、河床掘削、護岸の整備を行い、洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止することを目的としている。

### ◆事業概要

改修延長	L=2,700m
事業内容	河道拡幅、河床掘削 護岸整備、橋梁架替え等
治水安全度	W=1/100

### ◆事業経過

昭和63年度	事業採択
昭和63年度	工事着手
昭和63年度	用地着手



3

## 3. 事業の効果・必要性

### <河川の氾濫防止>

想定氾濫区域内には、時津町役場、時津警察署、時津小学校等の公共施設及び多くの家屋、また、氾濫区域内に国道206号、207号の主要幹線道路が存在する。



### <過去の災害状況>

時津川周辺は、過去にも家屋被害や公共施設が浸水被害を受ける等、甚大な被害に見舞われており、河川改修による事業効果が期待される。

昭和57年7月23日



▼時津川があふれて車などを押し流す



平成26年7月3日



長崎県時津町 災害写真集より

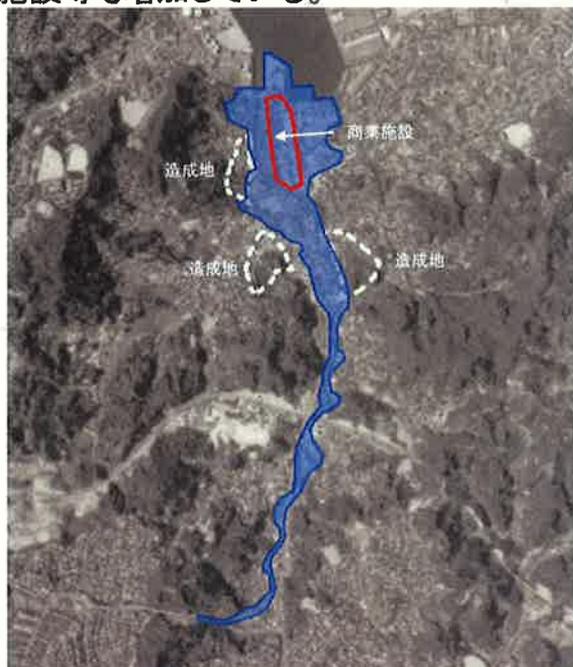
### 水害発生時の気象

年 月 日	日 雨 量(mm/日)	最大時間雨(mm/h)	備 考
S57.7.23	463.0	142.0	農地災害4.2ha 浸水家屋棟数650戸

4

## 4. 社会経済情勢等の変化

前回事業再評価時と比較した場合大きな変化はないが、事業化当時と比較すると、長崎市のベッドタウンとして宅地造成等がされ家屋が増加し、また郊外型大型商業施設等も増加している。



事業着手時(昭和62年撮影)



5 (平成27年撮影)

 想定氾濫区域

## 5. 事業の投資効果

### ◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成27年度)	今回評価 (令和2年度)
残事業	—	82.21 = 714.48億円 / 8.69億円
全事業	5.67 = 653.15億円 / 115.00億円	4.94 = 714.48億円 / 144.72億円

#### 〔費用〕

- ・河川整備に要する事業費(工事費、用地費)、河川維持管理に要する費用

#### 〔便益〕

- ・家屋、家庭用品、事業所及び従業員等の直接被害、営業停止、応急対策費等の間接被害、公共土木施設被害に対する便益

#### 〔プラス要因〕

- ・特になし

#### 〔マイナス要因〕

- ・浸水区域内の資産の減

#### 〔その他の要因〕

- ・費用対効果算定マニュアルの改訂(マイナス側要因)

## 6. 対応方針(原案)

- ◆ 時津川流域において、水害被害に対して、人的被害、一般資産、公共施設等を守るため、安全な河道を確保し、河川氾濫を防止するための河川事業である。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約86%[60.4億円/69.9億](令和元年度末)であり、用地進捗率は約90%となっている。
- ◆ 地元の時津町からも早期完成が望まれている。
- ◆ 事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替案の可能性はない。
- ◆ 事業費の増額、期間の延長もなく順調であり、費用対効果も十分に見込まれる。

